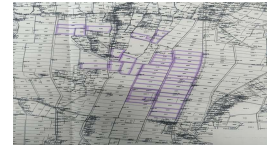


株式会社宮澤ファーム（長野県安曇野市）

組織の概要

- 平成24年7月に農事組合法人宮澤ファーム設立
令和4年4月に株式会社に組織変更
- 安曇野市三郷を主に水稻、小麦、大豆を栽培
- バイオスティミュラント資材を活用し品質・単収の向上につとめている。
- ブロックローテーション導入により生産コストを低減



種子小麦団地化地図

生産概要

- 【作付面積】水稻：37ha、小麦：41ha、種子小麦13ha、大豆：30ha（R4年）
- 2年3作の輪作（稲→麦→大豆）、一部地域ブロックローテーション導入
- 営農管理システム（ザルビオ）の活用によるほ場管理、スマート農業を活用した生産の高度化・省力化
- 気候変動に対応した栽培管理



耕うん同時畝立ての様子

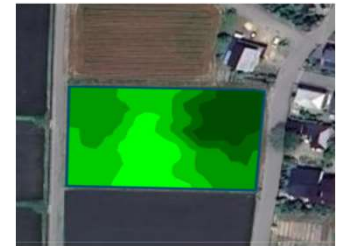
取組のポイント

<需要に応じた生産・品質分析>

- 多数の実需者との意見交換を実施し、要望を踏まえて栽培面積の拡大を実施
- 品質分析を実施し、次作の栽培管理に活かす取り組みを実施

<スマート農業の活用・気候変動に対応した栽培・ブロックローテーションを導入>

- 地域の方々と話し合いを行いブロックローテーション導入の理解を深めている。
- 団地化することで種子栽培の管理を行いやすくする。
- 用水路の改修を行い漏水対策・干ばつ対策に迅速に対応
- 過去の衛星データを活用した可変施肥の実施
- 面積拡大に対応した作業機の導入
- ブロックローテーション導入による雑草対策を行い単収の増加
- 効率的播種の導入



ほ場データの衛星画像

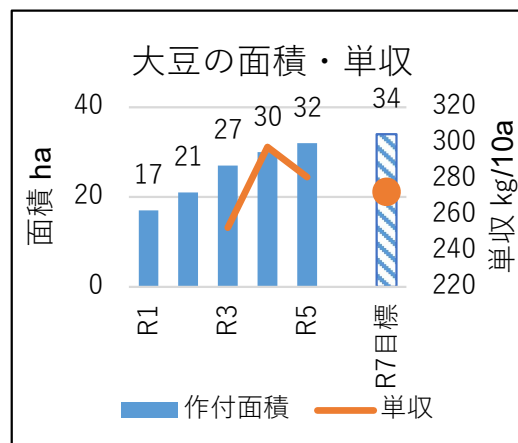
取組成果

<小麦、種子小麦生産>

- 種子小麦の団地化や、ザルビオによる営農管理、バイオスティミュラント資材のドローンによる適期散布を行ったことで、品質（粒張り）の改善に繋がった。 R4年 準種子→R5年 合格種子
- 地域的に問題になっている矢車草対策→ブロックローテーション導入により雑草密度の減少
- 栽培面積拡大に対応するため効率的播種技術導入により労力の削減、湿害対策を実施

<大豆生産>

- 実需者との意見交換を行い面積の拡大
R元年17ha R2年21ha R3年27ha
R4年30ha R5年32ha R7年34ha
- 耕うん同時畝立てアタッチメントの導入と用水路の改修により湿害、干ばつ対策に迅速に対応し単収の安定化
R3年253kg R4年298kg
R5年281kg R7年273kg



小麦の排水対策の効果